

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393400128		
法人名	医療法人清友会		
事業所名	グループホームにこやか 若宮		
所在地	愛知県犬山市裏ノ門45番地		
自己評価作成日	平成26年2月21日	評価結果市町村受理日	平成26年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様お一人おひとりの今までの生活スタイルを尊重し、家庭的な雰囲気の中で過ごして頂けるように努めている。 ・地域のボランティアの方や近隣の児童センター・子供未来園との交流を積極的に行っている。 ・隣接のクリニックと医療連携を行える体制ができており、緊急時なども家族、本人の意思に沿って、必要に応じた医療行為を提供できる。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&Jigvosyo_Cd=2393400128-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの母体は様々な介護サービスを提供している医療機関であるため、利用者は、ホームに入居する前から、デイケア等の在宅サービスを利用して、地域での生活を継続しながら馴染みの場所になるように働きかけ、その上でホームに入居することも可能である。さらに、ホームが医療機関に併設している利点を活かしながら、日常的には、医師による診察を受けることができ、夜間の時間は医療機関に看護師が勤務しているため夜間の急変にも対応することができ、利用者の健康面に関する支援が24時間体制で行われている。また、ホームはユニット毎に雰囲気が異なっており、リビングは明るさや広さをはじめ、設置されているキッチン、浴室も異なっている。そのうえで、新たに増設された部分は、プライバシーにも配慮された構造でもあり、利用者が落ち着いて生活できるような環境づくりが行わ</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成26年3月19日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認識しているが、職員間での話し合いは出来ていなかった。言葉掛けは地域話題を出すようにしている。	法人で策定された理念については重要事項説明書にも記載されており、ホームを利用する利用者、家族にも伝えられている。現状、職員への周知と内容の共有については、充分に行われていない。	理念は、ホームの基本的な方針、指針でもあるため、日常の支援を通じた職員間の共有と振り返り、理念の実践に向けての具体的な目標づくりに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育所、児童館などとの交流、ボランティアとの交流がある。地域ふれあい交流会を活用し、レクの参加を利用者に呼びかけている。	母体の医療機関が地域での医療を行ってきた実績があり、ホームのことも地域の方には知られている。ホーム利用者は、地域の保育園や近隣の児童館との交流の機会をつくりながら、定期的な交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム設立前に行った説明会は、地域の方々に向けて認知症の支援の方法を説明したと言える。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方やご家族様の意見を参考に業務やサービス内容の考慮はしている。	今年度の会議の開催は5回であるが、会議の機会を通じて行った避難訓練の際には、地域の民生委員の方も参加しており、ホームへの理解につなげている。また、会議を通じて、出席者から、意見や要望等を確認する機会としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	関係性は築けていると思うが、伝えているかはわからない。	市の担当部署には、運営推進会議の案内と報告を直接行っていることで、定期的な情報交換の機会としている。また、ケアマネジャーが集まる連絡会への出席や、市の介護相談員の定期的な訪問も得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のない状態で、入居者様が安全に生活できるケアを目指している。生命の危険が考えられる時以外の拘束はないようにし、常に何が拘束になるか考えて行動している。	ホームは身体拘束を行わない方針のもと、フロア内の移動が自由であり、エレベータ横の階段で移動できるため、職員による見守りに取り組んでいる。また、管理者は日常的に職員に注意を促すように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待を招く前に職員同士の連携を保ち、助け合って行けるよう継続中である。虐待はないと思われる。もしあった場合も報告しあえる環境であると思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	先日、研修で学んでいるが、完全には理解出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明されている。入居者様や家人より求められた時は、管理者又は居宅職員へ報告する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望はよく聞き入れられ、反映する様努力していると思う。入居者様からの要望には可能な限り答えるようにしている。色々な事を言いやすい状況にはなっている。	現状、家族会等の機会はつくられていないが、利用者の中には、以前より母体の医療機関をかかりつけ医としている方がおり、意見や要望等は日常的でもある。また、運営推進会議に出席してもらい、会議を通じて、意見や要望等を出してもらうようにしている。	現状、ホーム便りが作られていない。便りの作成は、家族、職員の双方にとって、利用者の把握にもつながるため、担当者を設ける等、今後の取り組みに期待したい
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者との連絡等は出来ていると思う。個々の意見を聞いたり、ミーティング等で意見を集め、サービス提供に反映させている。	職員会議については、職員の状況をみながら、ユニット合同で開催するよう取り組んでいるが、日常的には管理者が現場に入っていることもあり、随時の把握と確認に取り組んでいる。また、管理者や主任職員による面談の機会もつくられている。	今後に向けた取り組みのテーマとして、定期的な研修の実施を考えている。職員の資質向上をはかりながら、より前向きな意見等が出され、運営に反映されることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者もいろいろ大変な中努力はされているように思える。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には参加させて頂いているが、職場での反映は難しいと思う。反映出来ない。職員の認知症実践者研修への参加をはじめ各種研修参加への体制は積極的に感じる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修にてネットワークが作れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に積極的に話しかけ、ご本人を理解できるように努め、ご本人が話し掛けやすい雰囲気を作れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人やご家族に安心してご利用頂けるように聴き取りを行い、ニーズや問題点の把握に努めている。面会に来られた際に、世間話等から話していくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サマリーや会話等を通じて、本人の要望等、必要としているものを見極めて他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	良き先輩として、食事の作り方、味見等相談している。自分の事は自分で出来るように、出来なくなって来た事は手伝わせてもらっている。細かな事でも声を掛け、できるだけ一緒に時間を過ごせるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会にみえた時には、ご本人の変化等があれば、お話をしている。まず家族の面会に来られた折、笑顔で挨拶する様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が訪ねて来た時には話が出来る場を提供できている。外出等が出来ていない為、なじみの場所へは難しい。	ホームでは、利用者の知人、友人が病院受診の際に交流することがある他に、馴染みの美容院の方との交流の機会もある。また、家族との関係継続にも取り組んでおり、法事に出かけたり、時には自宅に戻って家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの意志決定を尊重しつつ、グループホーム全体がもう一つの家族となるような支援に努めています。仲の良い人だけでなく、一人で居る人に輪に自然と入れる様な声かけ、雰囲気を中心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	毎日バイタル測定し、健康状態を把握するように心がけ、一人一人の入居者様とゆっくり話す時間を作る様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人一人の生活リズム、環境等を大切に、ケアをしている。一人ひとりに話を聞いて、好みなどを知り、希望や意思の把握に努めている。	利用者と接する際には、男性職員と女性職員で役割を分担する等の工夫を行い、利用者が自身の思いを話してもらえるような環境づくりに努めている。把握した情報は、申し送りやカンファレンスを通じて、職員間の共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の入居者様のケアシート、プラン等で確認し、把握に努めている。個人記録で確認している。家族様に確認したり、本人にも聞いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守り、声かけの中で、その方の変化に気付けるようにしている。日々入居者様を観察して、現状に合ったサービスの提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	都度定期的にケアプランは見直し、現状を反映する様努力が必要である。職員間で話し合い実施しているが、現状に即していない場合もある。	介護計画の様式については、アセスメント的な要素を取り入れた内容を利用しており、職員間で支援内容を共有しやすいように取り組んでいる。また、介護計画の内容の見直しについては、基本、半年毎に担当者会議を行いながら実施している。	介護計画の内容について、見直しの際には、変化の様子が分かるように、定期的なモニタリングの実施に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人的な記録にその方の変化等は記入している。個別記録、申し送りへの記録等で職員間の情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に支援はしている。マッサージ等のサービスを取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔なじみの美容院の利用などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診が2回/月、実施されている。受診等はいつでも希望があれば出来る。適切な往診の後のケアにより、体調が安定し、良い信頼を入居者様から得ている。	母体が医療機関であるため、利用者は日常的に医師に受診を受けることが可能であり、夜間の急変時にも看護師を通じて対応できる体制でもある。また、外部の医療機関への受診については、基本家族対応となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様に変化等があれば、看護職に報告を行い、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院とは同じ建屋内であり、情報は共有できる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と対応を確認し、支援にむけて取り組んでいる。ご家族や関係者には、その方の変化や状況を説明し、早い段階で行動できる様に努めている。上司とも相談し、終末期の対応を決めている。	利用者の看取りを見据えた支援については、利用者、家族より意向を確認しながら対応しており、ホームで最期を迎えた方もいる。ホームは開設して1年目でもあるため、職員に対する指導やフォロー等については、今後のテーマでもある。	ホームでの看取り支援については、医療機関での支援とは異なる点もある。重度の方が生活している現状もあり、外部研修への参加も考えている。利用者のより良い支援につながることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	クリニックと連携をとり出来ている。看護師と急変時の連絡はとっている。定期的に勉強していると思われる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難の為の訓練は行われている。定期的に避難経路の確認や、経路の周りに物を置かない様にしている。	避難訓練の際には、ホーム単独での訓練と、併設事業所との合同の訓練も実施しており、職員間の連携に取り組んでいる。訓練の際には、地域の方にも見てもらう機会もついている。なお、ホームにおける備蓄に関しては、今後のテーマでもある。	ホームは、建物の3階にあるため、利用者の安全な避難誘導方法の浸透に期待したい。また、ホーム内にとどまることができるように、備蓄の確保にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を尊重した声掛けをしている。子供扱いはしないようにしている。排泄の声掛けは対象入居者様のみわかるように行っている。入居者様が施設の主役であるよう人格を尊重し、居室等で個人的な話をするようにしている。	職員による利用者への対応については、管理者が日常的に現場に入っていることもあり、気になった際には注意を促すように努めている。また、職員間で意識し合えるような関係づくりにも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の返答を焦らさず、待つようにし、自ら話せる様になっている。小さな事(衣類の選択など)でも話しながら行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の意志決定を尊重し、業務を実施している。起床時間や食事の時間(朝)は自身の都合を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えはご本人の着たい物を準備する様に努めている。髪型、服類が変わったら「とてもステキ」と声かけをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いや食器拭き、テーブル拭きを手伝って頂いている。利用者様より料理に関するアドバイスを頂き、参考にさせてもらう。洗い物等出来ている。	朝食と夕食はホームで調理し、昼食は医療機関の厨房から提供している。夕食のメニューについては職員間で考えており、利用者の好みや嗜好にも配慮している。また、重度の方も利用しているため、刻み食やミキサー食にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態を知り、栄養摂取しやすいよう、状況に合わせて変化させ、習慣に応じた支援をしている。食物形態、分量、1人ひとりの健康状態に合わせた支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の状況にもよるが、声掛け、見守りを行っている。歯磨きをすすめると共に、出来ない時には、うがいでだけでもする様に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現状トイレが使用出来る入居者様は、それが維持出来る様努力している。排泄時、見守りの位置や声かけ、介助の仕方等一人ひとり変えている。	職員は、個人記録の中に排泄記録を残している他に、チェック表も利用しながら、排泄パターンの把握に努めている。また、職員間で検討しながら、便秘に効果があるセンナ茶の利用も行いながら、適切な排泄に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂って頂いたり、便秘にならないように注意している。排便対応シートを作成し、適切なセンナ茶の飲用の推進など、各人に応じて対応又は予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決まっているが、できる限り、快適に入浴して頂けるようにしている。ある程度、個々の希望やタイミングに合わせて支援できている。	浴室と浴槽については、ユニット毎にタイプが異なっており、座浴と普通浴が設置されている。重度の方については、併設事業所の機械浴の利用も可能である。また、入浴は週2回が基本であるが、それ以上の回数入浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のリズムを尊重している。その人その人の生活習慣を重視し、無理のない生活を送ってもらえる様に心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は自立、支援の方ががあるので、どちらも最後迄見守っている。時々、最終的な内服を確認せず、口の中に残っていると指摘される事もある。往診の度に、薬剤情報を確認し、薬の目的、効果をメモしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今迄の生活環境の中で得意としてきた編み物やぬり絵、食器拭き、又昔なつかしいレコードや盆踊りの曲等を聞き、気分転換してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の入居者様の健康状態を把握し、散歩等出かける様に心掛けている。季節的な事や、勤務状態もあるが、戸外に出かけ季節感や空気を感じてもらいたい。	利用者が日常的に外出できる機会が限られているが、ホーム近隣にある児童館に出かける機会をつくったり、買い物の際には職員と一緒に出かけることがある。また、季節や生活習慣に合わせた外出として、花見や紅葉、初詣にも出かけている。	利用者の外出の機会が少ない現状があると感じている。今後に向けて、家族にも協力してもらおう機会をつくりながら、利用者の外出が増えていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際に買い物ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙などの支援が出来ればいいと思う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間作りができるように努力している。温度・湿度に気を配り、掃除も出ている。	リビングはユニット毎に異なっており、明るさや広さも異なっており、キッチンも異なっている。新たに増設された部分については、プライバシーにも配慮された構造でもあり、利用者が落ち着いて生活できるような環境づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様一人ひとりの性格をつかみ、楽しい時間をできるだけ長く希望に沿ったものを、その場で判断し、実施している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、部屋のレイアウト等も随時変更し、居心地良く過ごせる工夫をしている。	居室は、部屋ごとに広さや雰囲気が異なっており、明るい部屋や洗面台が設置されている部屋があり、利用者の生活に合わせたサービス提供が可能となっている。また、様々な家具や調度品を持って来ている方やシンプルな部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ていると思うが、入居者様がダンス等につまずく事もあり、手引き歩行時もふらつかれてしまう事がある。行動については見守りを重視し、安全と自立への配慮を行っている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームにこやか

目標達成計画

作成日: 平成 26年 4月 23日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有ができていない	職員への理念の周知と内容の共有	・スタッフルームに理念の掲示を行う。 ・理念に基づいた介護が行えるように定期的にミーティングを行う。	6ヶ月
2	4	運営推進会議が年に6回開催していない	運営推進会議を年に6回以上開催する	・年間計画をしっかりと立て、その通りに実施するように努める。	1年
3	10	家族会を開催していない	家族会を年2回以上開催する	・家族同士の横のつながりができ、家族同士が互助的な関わり合いができることを目標に家族会を開催していきます。 ・結集目標として、入居者数の半数以上の家族で行えるように声かけ、働きかけを行っていきます。	1年
4	10	グループホーム通信を発行していない	グループホームに対して、家族、地域などに関する啓蒙活動を行っていききたい	・年2回以上のグループホーム通信を編集、発行する。	1年
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。